

2022年度決算の概要及び 2023年度業績予想の概要

三井化学株式会社

本資料の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2023年5月12日

目次

1. 2022年度決算の概要	
1) 主要関連市場動向	…1
2) 主な投資案件等の状況	…2
3) 決算の概要	…3-4
4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減（対前年決算）	…5
5) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向	…6-9
6) 非経常項目の内訳	…10
7) 財政状態計算書	…11
8) キャッシュ・フロー計算書	…12
2. 2023年度業績予想の概要	
1) 業績予想の概要	…13-14
2) セグメント別 売上収益/コア営業利益予想（対前年決算）	…15
3) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向（対前年決算）	…16-19
4) セグメント別コア営業利益推移	…20
5) 資源投入計画	…21
6) 株主還元	…22
7) キャッシュ・フロー計算書の予想	…23
3. 補助資料	…24-32

1. 2022年度決算の概要

1) 主要関連市場動向

関連市場		22年度実績 (前年比)		23年度予想 (前年比)							
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	メガネレンズ市場	引き続き堅調に推移		引き続き堅調に推移							
	農薬市場	引き続き堅調に推移		引き続き堅調に推移							
モビリティソリューション	自動車生産台数(世界) *		+9%		+3%						
	<table border="1"> <tr> <td>日本</td> <td rowspan="5">地域毎に差はあるも欧州を除きグローバルに回復</td> <td rowspan="5"></td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr> <td>北米</td> </tr> <tr> <td>中国</td> </tr> <tr> <td>ASEAN</td> </tr> <tr> <td>欧州</td> </tr> </table>	日本	地域毎に差はあるも欧州を除きグローバルに回復			北米	中国	ASEAN	欧州		中国を除きグローバルに回復
日本	地域毎に差はあるも欧州を除きグローバルに回復										
北米											
中国											
ASEAN											
欧州											
ICTソリューション	半導体市場	需要減		上期は需要減継続。下期から緩やかに回復を見込む。							
	スマートフォン市場	需要減		上期は需要減継続。下期から緩やかに回復を見込む。							
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	市況	フェノール ビスフェノールA アセトン		需給環境が軟化継続し 各市況とも低水準							
	TDI					TDIの市況は低水準		引続き需給環境軟化継続			
	MDI							市況は安定的に推移			
	クラッカー稼働率	低稼働		下期から稼働率改善							

* 外部機関参考による当社推定値

2) 主な投資案件等の状況

主な投資案件		時期	能力	FY21	FY22	FY23	FY24以降
ライフ & ハルスケア・ソリューション	整形外科領域 日本エム・ディ・エム資本・業務提携	22年1月	-		▶		
	農薬事業買収	22年1月	-		▶		
	メガネレンズ加工機メーカー買収	22年11月	-		▶		
	不織布事業JV設立@Japan	23年10月	-			▶	
	メガネレンズモノマー能力増強@Japan	23年10月	-			▶	
モビリティソリューション	タフマー®新設@Singapore	24年度	120KT				▶
	EUVベリクル新設備@Japan	21年4月	-	▶			
ICTソリューション	アベル®新プラント@Japan	22年6月	+50%		▶		
	ベリクル事業買収	23年7月	-			▶	
	イクロステープ™能力増強@Taiwan	23年10月	380万㎡			▶	
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	本州化学工業 連結子会社化	21年10月	-	▶			
	錦湖三井化学 MDI能力増強@Korea	24年7月	200KT				▶
	高機能PP新設備@Japan	24年11月	200KT				▶
	バイオマス原料調達拡大に向けた出資	22年6月	-		▶		
新事業・新製品	CVC設立	22年7月	-		▶		
最適化・再構築	高純度テレフタル酸(PTA)生産停止@Japan	23年8月	400KT			生産停止	▶
	7エノール子会社株式譲渡@Singapore	23年3月	-		株式譲渡	▶	
	TDI生産能力最適化@Japan	25年7月	120KT→50KT			生産能力最適化 ▶	

22年度 商業運転開始プラント等

22年度 意思決定案件等

3-1) 決算の概要

(単位：億円)

摘 要	21年度	22年度	増減	増減率
売上収益	16,127	18,795	2,668	17%
コア営業利益	1,618	1,139	△ 479	△ 30%
(うち、持分法による投資損益)	258	222	△ 36	△ 14%
非経常項目	△ 145	151	296	-
営業利益	1,473	1,290	△ 183	△ 12%
金融収益・費用	△ 60	△ 117	△ 57	-
税引前利益	1,413	1,173	△ 240	△ 17%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,100	829	△ 271	△ 25%

為替レート(円/US\$)

112

135

+ 23

国産ナフサ(円/KL)

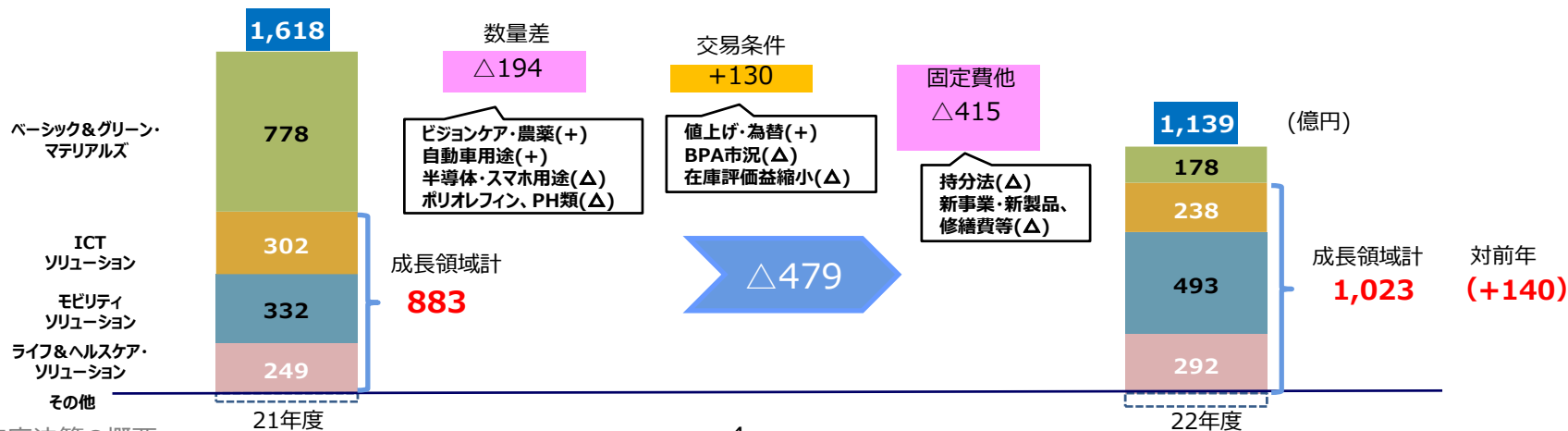
56,600

76,600

+ 20,000

3-2) 決算の概要 (コア営業利益)

項目	内容	損益増減
数量	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンケア、農薬は引続き販売堅調。 ・自動車用途関連はグローバルな部材不足の影響は残るものの回復。 ・半導体関連は半導体、スマートフォン市場の需要鈍化により販売数量は減少。 ・ポリオレフィン及びフェノール類は需要減により販売数量は減少。 	(+) (+) (△) (△)
交易条件	<ul style="list-style-type: none"> ・価格改定及び円安影響により交易条件改善。 ・海外市況はビスフェノールAを中心に需給環境が軟化し下落。 ・22年度2Qからの原料価格下落に伴う在庫評価益の縮小。 	(+) (△) (△)
固定費他	<ul style="list-style-type: none"> ・資材費高騰による修繕費及び新事業・新製品開発等の資源投入によるコスト増加。 	(△)



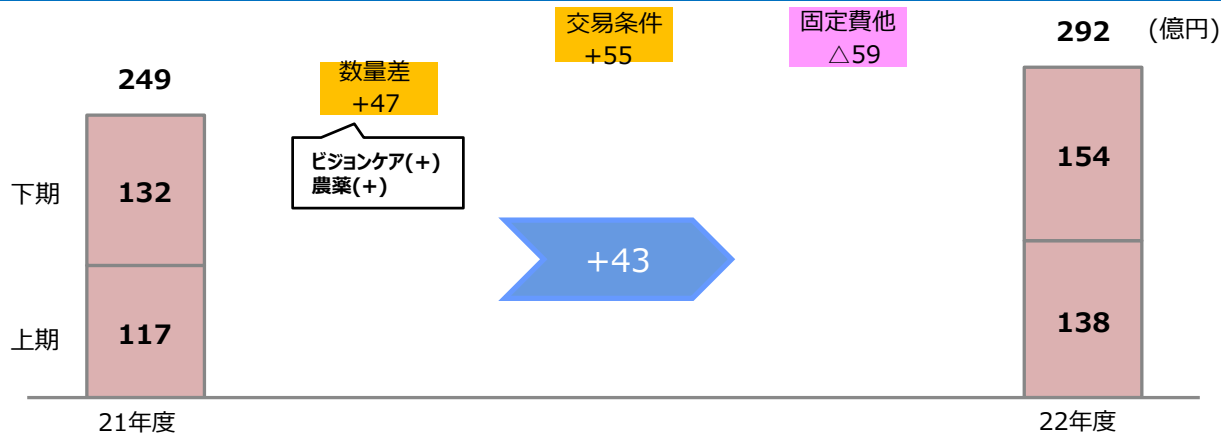
4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減 (対前年決算)

(単位：億円)

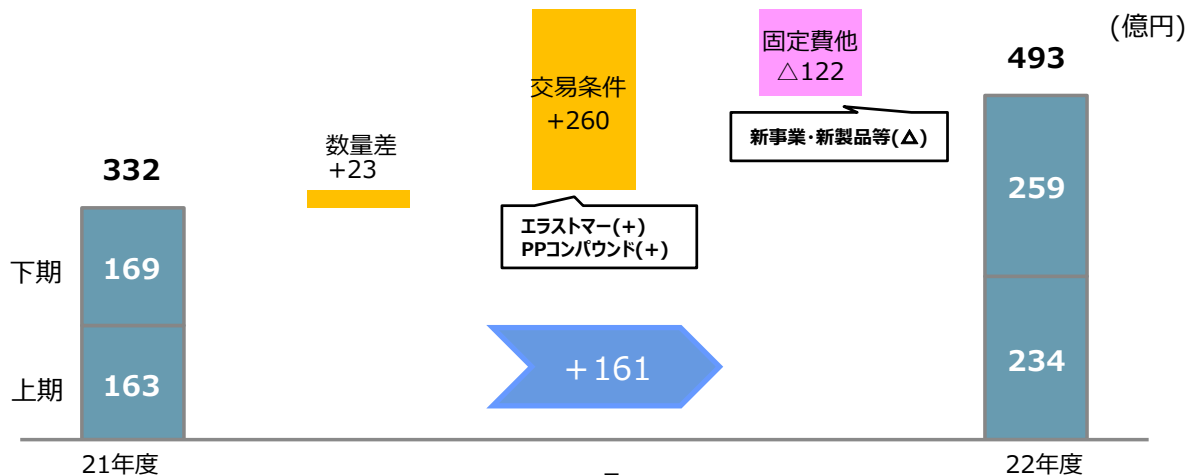
セグメント	売上収益			コア営業利益			増減内訳		
	21年度	22年度	増減	21年度	22年度	増減	数量差	交易条件	固定費他
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	2,252	2,582	330	249	292	43	47	55	△ 59
モビリティソリューション	4,327	5,216	889	332	493	161	23	260	△ 122
ICTソリューション	2,071	2,357	286	302	238	△ 64	△ 90	80	△ 54
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	7,371	8,490	1,119	778	178	△ 600	△ 174	△ 265	△ 161
その他	106	150	44	△ 43	△ 62	△ 19	-	-	△ 19
合計	16,127	18,795	2,668	1,618	1,139	△ 479	△ 194	130	△ 415
成長領域*	8,650	10,155	1,505	883	1,023	140			

*ライフ&ヘルスケア、モビリティ、ICT

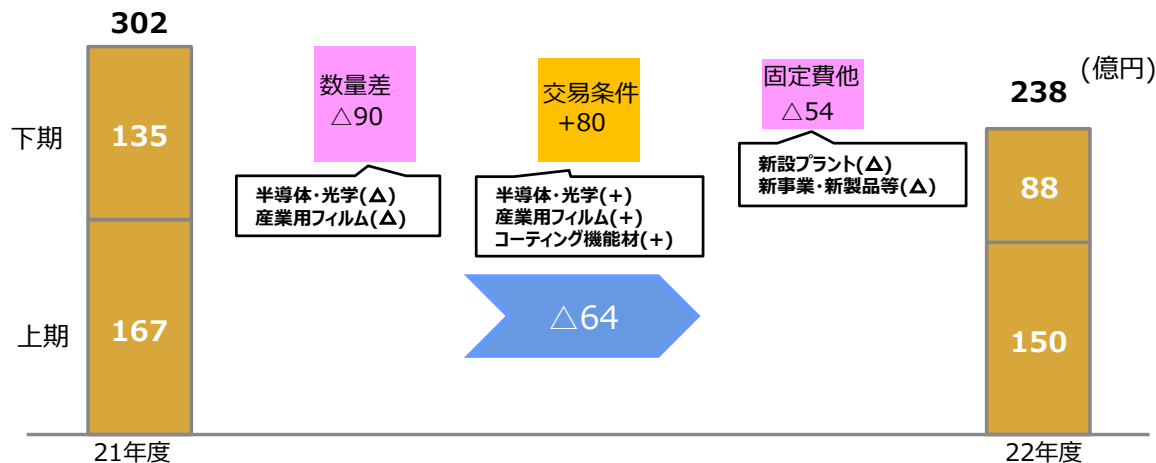
	22年度決算/事業動向	主要増減要因
ビジョンケア	➡ ・販売は堅調に推移 ・値上げするも原料価格上昇に伴う交易悪化	数量(+) 交易条件(△)
不織布	➡ ・価格改定に伴う交易改善	数量(△) 交易条件(+)
オーラルケア	➡ ・販売は前年並みに推移 ・固定費増	固定費(△)
農薬	➡ ・販売は堅調に推移 ・為替差による交易改善 ・販売増加等に伴う固定費増	数量(+) 交易条件(+) 固定費(△)



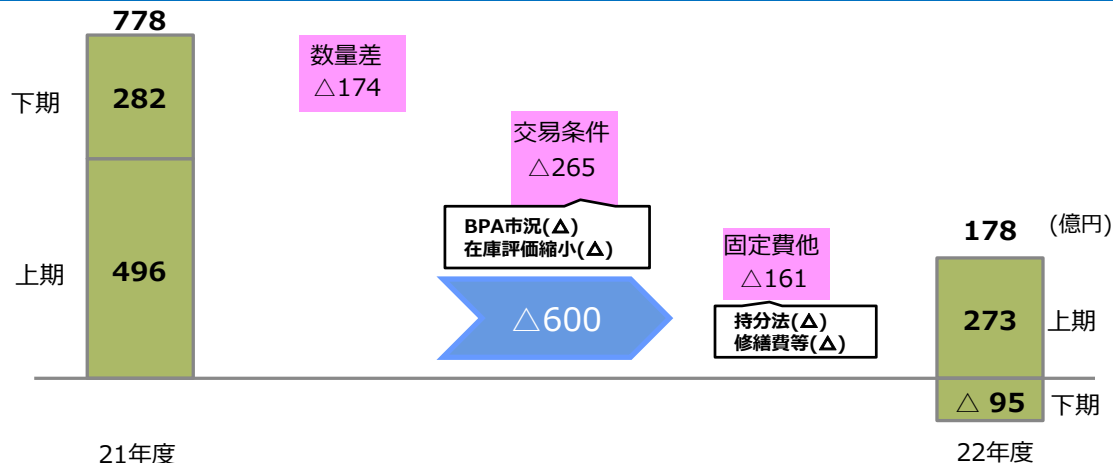
	22年度決算/事業動向	主要増減要因
エラストマー	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽電池封止材の販売は堅調に推移 ・価格改定及び為替差、高付加価値品へのシフトによる交易改善 	交易条件(+) 固定費(△)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車用途関連は回復 ・価格改定及び為替差による交易改善 	数量(+) 交易条件(+) 固定費(△)
ソリューション事業	<ul style="list-style-type: none"> ・販売は受注減継続により前年並み 	-



	22年度決算/事業動向	主要増減要因
半導体・光学	<ul style="list-style-type: none"> ・EUVペリクルの販売は堅調に推移するも、半導体及びスマートフォン市場需要鈍化の影響を受け販売は減少 ・為替差により交易条件改善 ・新設プラント稼働による固定費増(アペル[®]) 	数量(Δ) 交易条件(+) 固定費(Δ)
産業用フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体需要鈍化により販売は減少 ・為替差による交易条件改善 	数量(Δ) 交易条件(+) 固定費(Δ)



	22年度決算/事業動向	主要増減要因
石化	<ul style="list-style-type: none"> ・需要減により販売減少 ・22年度2Qからの原料価格下落に伴う在庫評価益の縮小 	数量(Δ) 在庫(Δ) 固定費(Δ)
基礎化	<ul style="list-style-type: none"> ・需要減により販売減少 ・ビスフェノールAを中心に海外市況は、需給環境が軟化し下落 	数量(Δ) 交易条件(Δ) 固定費(Δ) 持分法(Δ)
ウレタン	<ul style="list-style-type: none"> ・持分法投資損益の増加 	数量(Δ) 持分法(+)



(単位：億円)

摘 要	21年度	22年度	増減
固定資産処分・売却損益	△ 14	△ 20	△ 6
減 損 損 失	△ 162	△ 75	87
そ の 他	31	246	215
非経常項目 合計	△ 145	151	296

7) 財政状態計算書

(単位：億円)

摘 要	22年3月末	23年3月末	増減	摘 要	22年3月末	23年3月末	増減
流動資産	(10,335)	(10,943)	(608)	負債	(11,279)	(11,849)	(570)
現金及び 現金同等物	1,812	1,863	51	営業債務	1,748	1,643	△ 105
営業債権	3,704	3,522	△ 182	有利子負債	7,151	7,947	796
棚卸資産	3,690	4,419	729	その他	2,380	2,259	△ 121
その他	1,129	1,139	10	資本	(8,071)	(8,833)	(762)
非流動資産	(9,015)	(9,739)	(724)	親会社の所有者に 帰属する持分	7,127	7,868	741
有形固定資産及び 使用権資産	5,536	6,009	473	非支配持分	944	965	21
のれん及び 無形資産	633	675	42				
非流動の その他の資産	2,846	3,055	209				
合 計	19,350	20,682	1,332	合 計	19,350	20,682	1,332

(単位：億円)

摘 要	21年度	22年度	増減
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	926	1,012	86
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 2,052	△ 1,063	989
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	△ 1,126	△ 51	1,075
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	892	25	△ 867
IV. その他	86	77	△ 9
現預金等増減	△ 148	51	199

2. 2023年度業績予想の概要

22年度よりセグメントを変更しております。
新セグメントに基づく21年度以前の決算値は、22年度以降のセグメント比較を目的に作成した概算値です。

1 - 1) 業績予想の概要

(単位：億円)

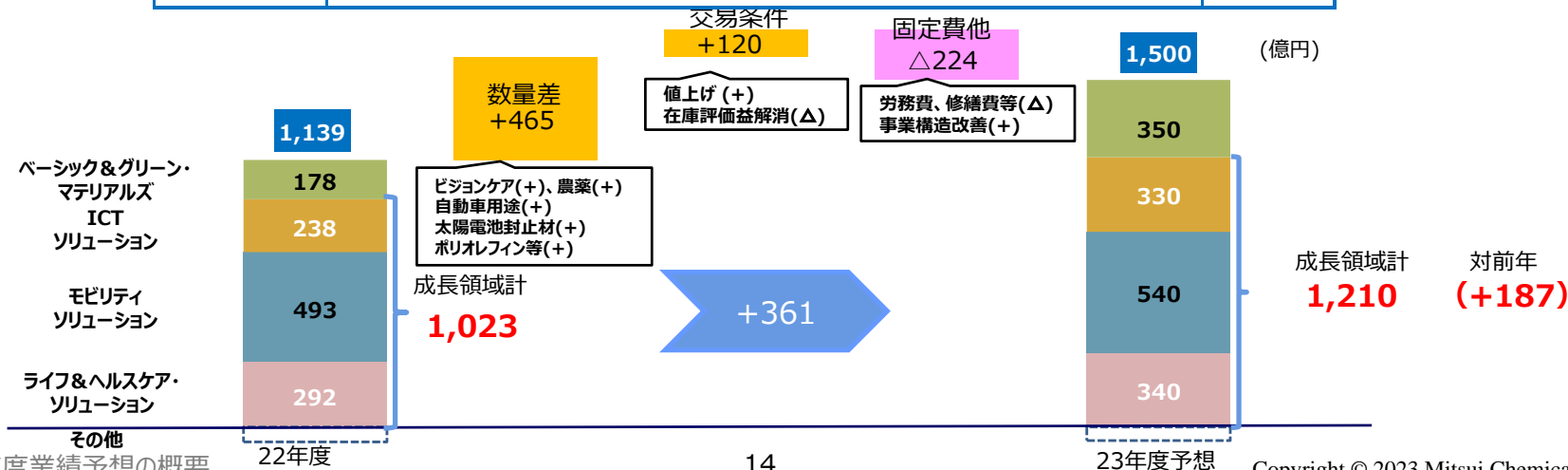
摘 要	22年度決算	23年度予想	増減	
			年度	%
売上収益	18,795	19,000	205	1%
コア営業利益	1,139	1,500	361	32%
非経常項目	151	△ 50	△ 201	—
営業利益	1,290	1,450	160	12%
金融収益・費用	△ 117	△ 50	67	—
税引前利益	1,173	1,400	227	19%
親会社の所有者に帰属する当期利益	829	1,000	171	21%

為替レート(円/US\$) 135 135 + 0

国産ナフサ(円/KL) 76,600 72,000 △ 4,600

1 - 2) 業績予想の概要 (コア営業利益)

項目	内容	損益増減
数量	・ビジョンケア、農薬は引続き販売堅調を見込む。	(+)
	・自動車用途回復、太陽電池封止材等は販売堅調を見込む。	(+)
	・ポリオレフィン是需要回復に伴い販売数量増加を見込む。	(+)
	・その他全事業通じて需要回復に伴い販売数量は増加を見込む。	(+)
交易条件	・用役コストや物流費を中心としたコスト上昇に伴う値上げ。	(+)
	・22年度原料価格上昇に伴う在庫評価益の解消。	(△)
固定費他	・拡販や事業拡大に向けた人員増に伴う労務費増加。	(△)
	・資材費高騰による修繕費及び新事業・新製品開発等の資源投入によるコスト増加。	(△)
	・サーキュラーエコミーへの対応強化、DX推進によるコスト増加。	(△)
	・事業構造改善による収益改善。	(+)



2) セグメント別 売上収益/コア営業利益予想 (対前年決算)

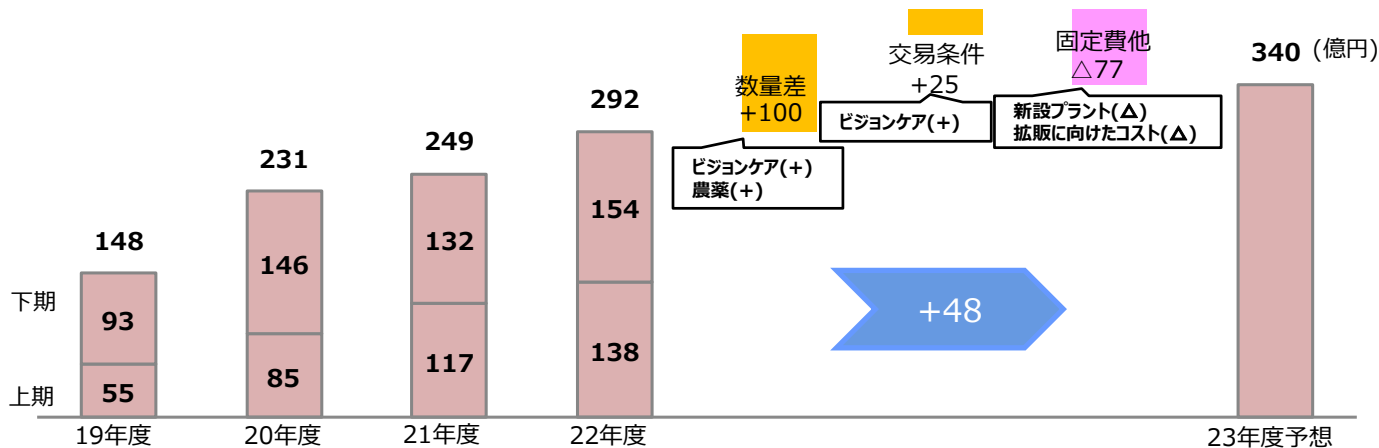
(単位：億円)

セグメント	売上収益			コア営業利益			増減内訳		
	22年度決算 (a)	23年度予想 (b)	増減 (b)-(a)	22年度決算 (c)	23年度予想 (d)	増減 (d)-(c)	数量差	交易条件	固定費他
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	2,582	2,840	258	292	340	48	100	25	△ 77
モビリティソリューション	5,216	5,580	364	493	540	47	180	△ 40	△ 93
ICTソリューション	2,357	2,710	353	238	330	92	100	45	△ 53
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	8,490	7,700	△ 790	178	350	172	85	90	△ 3
その他	150	170	20	△ 62	△ 60	2	-	-	2
合計	18,795	19,000	205	1,139	1,500	361	465	120	△ 224
成長領域*	10,155	11,130	975	1,023	1,210	187			

*ライフ & ヘルスケア、モビリティ、ICT

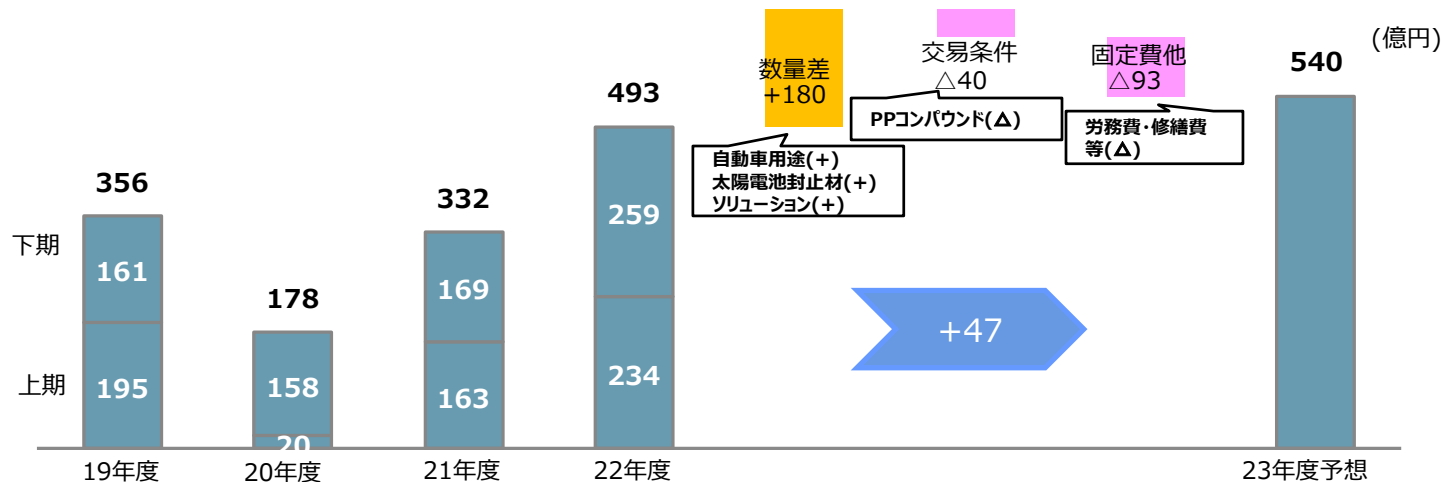
3-1) ライフ&ヘルスケア・ソリューション:コア営業利益増減/事業動向(対前年決算)

	23年度予想/事業動向	主要増減要因
ビジョンケア	<ul style="list-style-type: none"> 販売は堅調に推移 22年度値上げによる交易改善 新設プラント稼働による固定費増(MR™) 	数量(+) 交易条件(+) 固定費(Δ)
不織布	<ul style="list-style-type: none"> 事業統合により販売増 	数量(+)
オーラルケア	<ul style="list-style-type: none"> 販売は堅調に推移 拡販に向けた人員増加による労務費増 	数量(+) 固定費(Δ)
農薬	<ul style="list-style-type: none"> 販売は堅調に推移 拡販に伴う登録維持費、試験費等の研究費増加 	数量(+) 固定費(Δ)

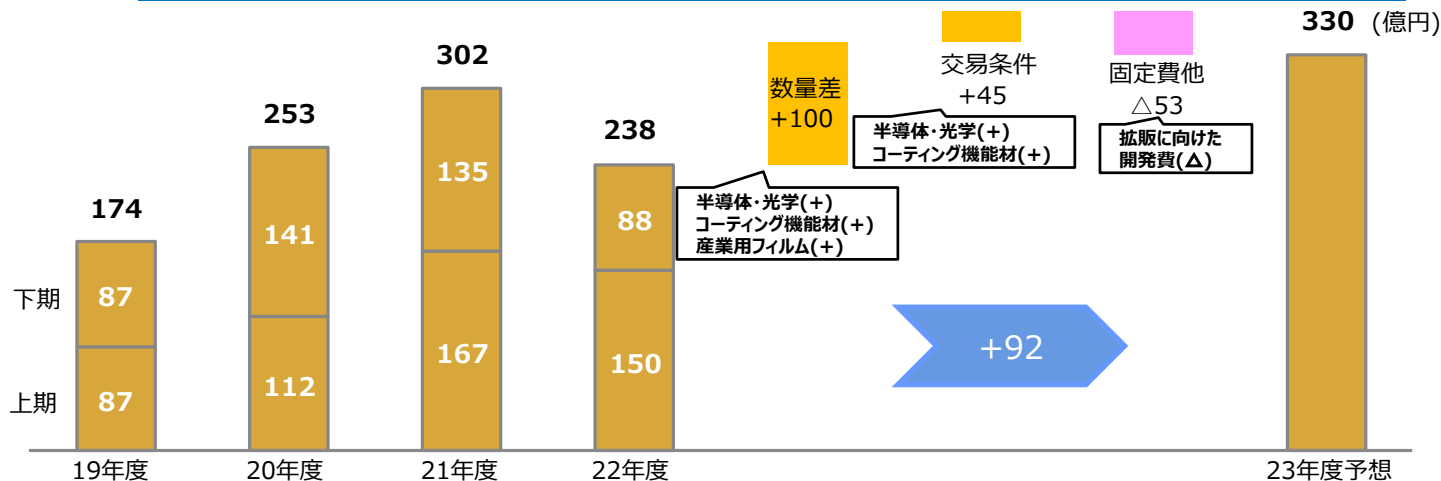


3-2) モビリティ・ソリューション:コア営業利益増減/事業動向(対前年決算)

	23年度予想/事業動向	主要増減要因
エラストマー	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途回復、太陽電池封止材等の需要堅調に伴う販売増 修繕費等の固定費増加 	数量(+) 持分法(Δ) 固定費(Δ)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途回復に伴う販売増 22年度下期期ずれ益の解消 拡販に向けた人員増加による労務費増 	数量(+) 交易条件(Δ) 固定費(Δ)
ソリューション事業	<ul style="list-style-type: none"> 自動車市場回復に伴う受注増 拡販に向けた人員増加による労務費増 	数量(+) 固定費(Δ)

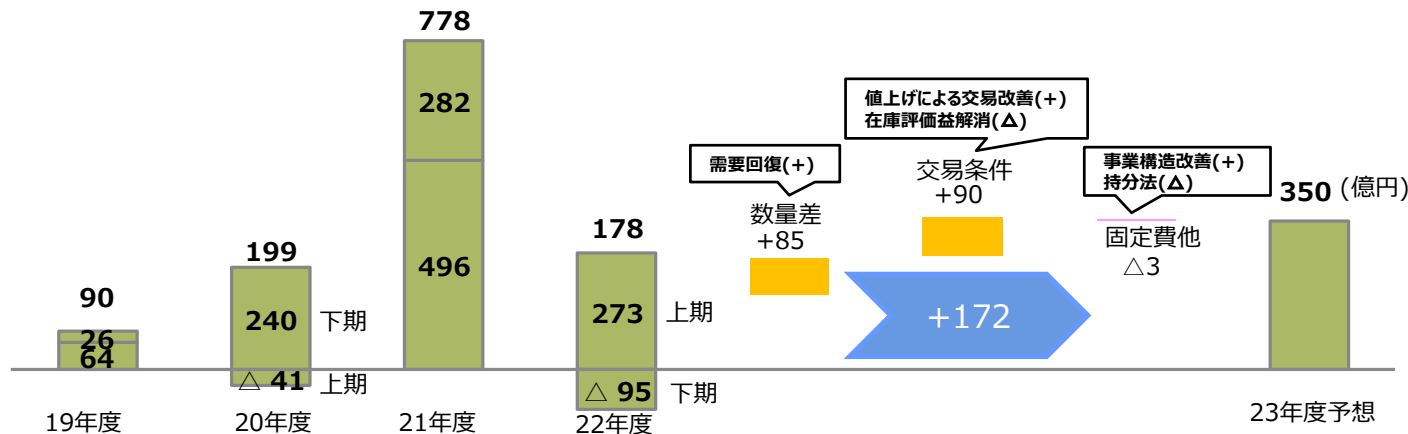


	23年度予想/事業動向	主要増減要因
半導体・光学	<ul style="list-style-type: none"> ・EUVペリクルの販売は堅調に推移、ペリクル事業買収による増販 ・新規用途増加に伴う交易改善 ・拡販に向けた開発費等の増加 	数量(+) 交易条件(+) 固定費(Δ)
コーティング機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品の拡販 ・拡販に向けた開発費等の増加 	数量(+) 交易条件(+) 固定費(Δ)
産業用フィルム	<ul style="list-style-type: none"> ・下期半導体市場回復に伴い増販 	数量(+)

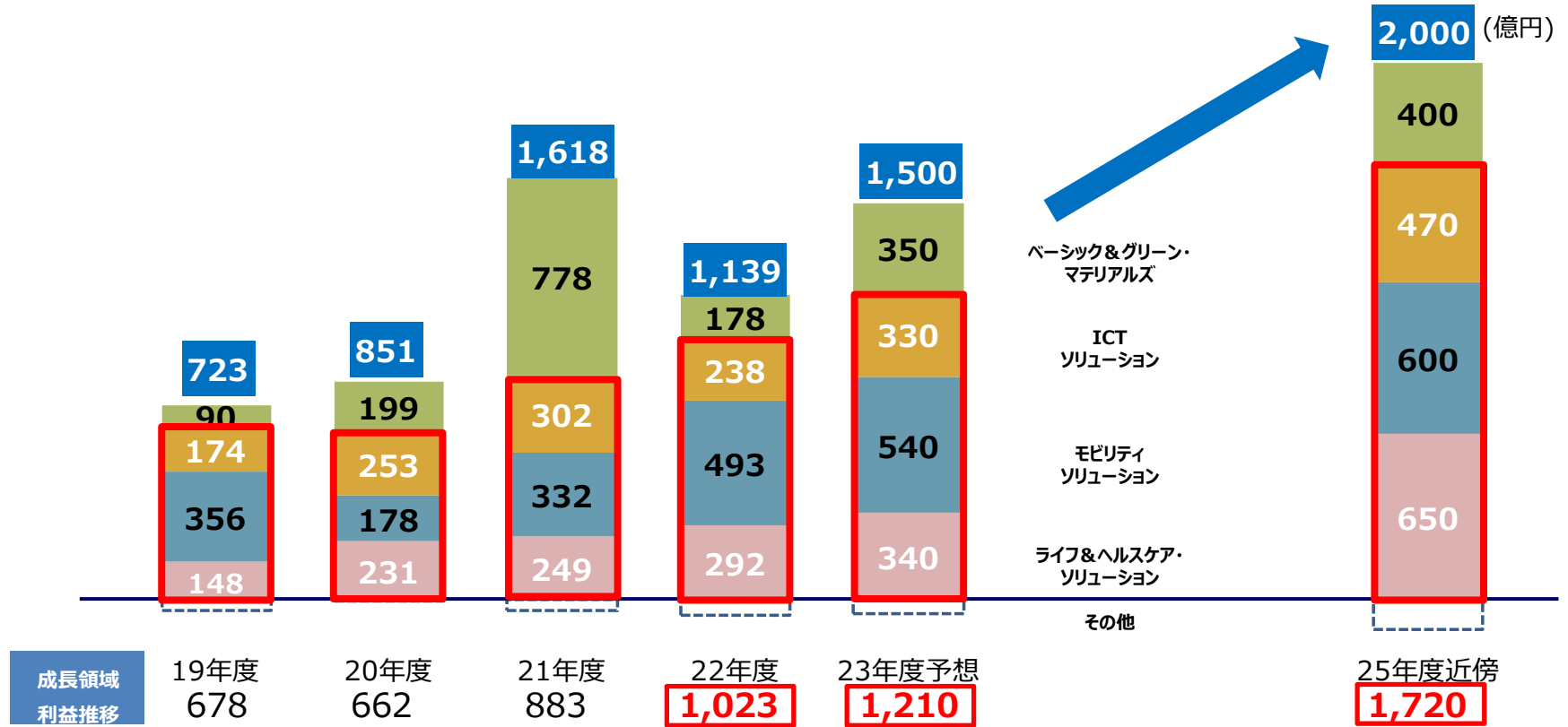


3-4) ベーシック&グリーン・マテリアルズ: コア営業利益増減/事業動向(対前年決算)

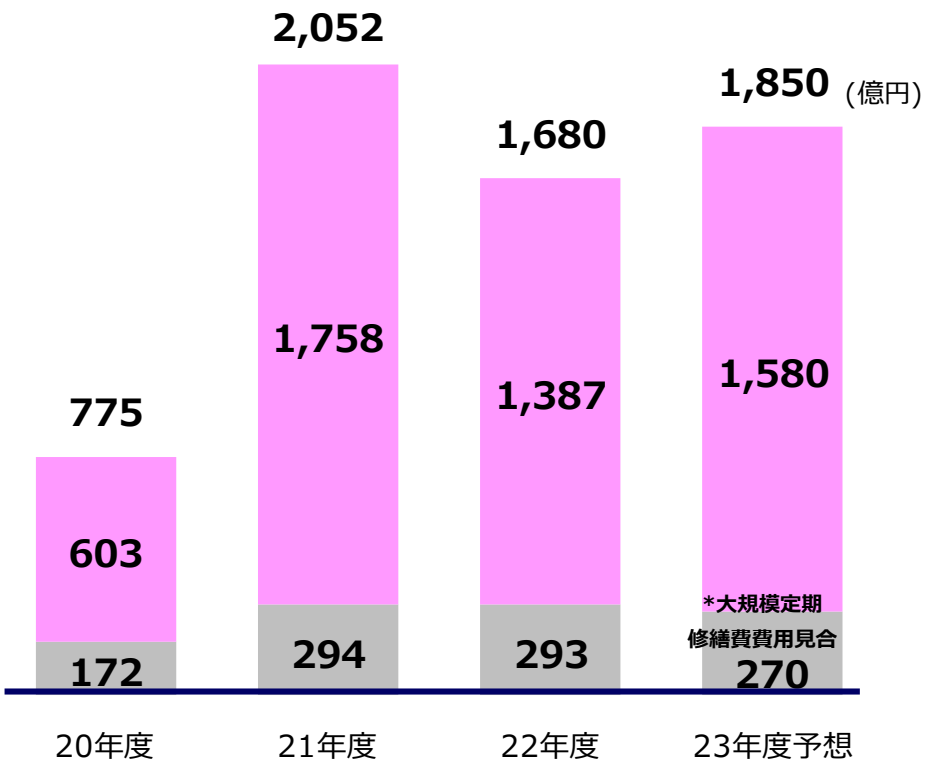
	23年度予想/事業動向	主要増減要因
石化	<ul style="list-style-type: none"> 需要回復に伴う販売数量増加 値上げによる取引改善 22年度原料価格上昇に伴う在庫評価益の解消 	数量(+) 取引(+) 在庫(Δ)
基礎化	<ul style="list-style-type: none"> 需要回復に伴う販売数量増加 値上げによる取引改善 事業構造改善による収益改善 	数量(+) 取引条件(+)
ウレタン	<ul style="list-style-type: none"> 需要回復に伴う販売数量増加 持分法投資損益の減少 	数量(+) 持分法(Δ)



4) セグメント別コア営業利益推移

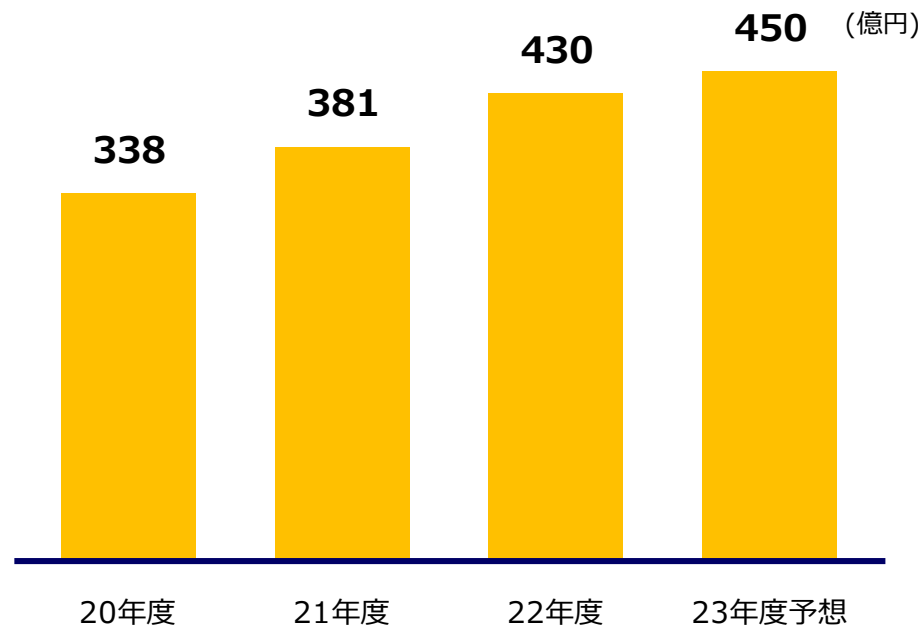


投融資



*IFRS適用に伴い有形固定資産として認識

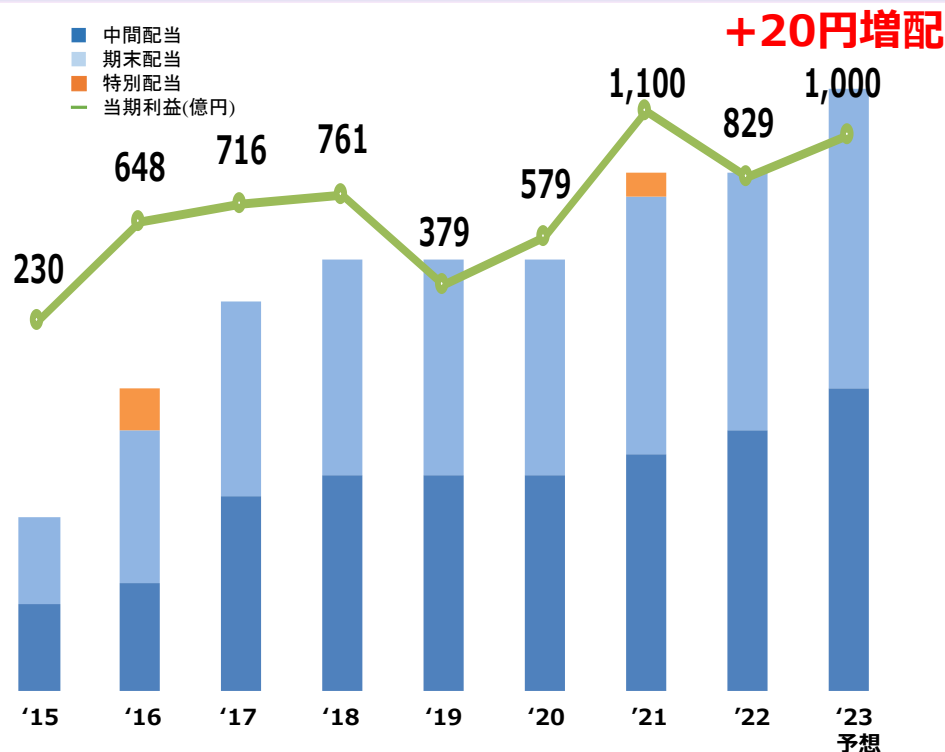
研究開発費



● 23年度配当予想

中間
期末
年間
70 円/株 + **70** 円/株 = **140** 円/株

- ✓ DOE 3.0%以上を目指す
- ✓ 安定的かつ継続的な配当
- ✓ 機動的かつ柔軟な自己株式取得
- ✓ 総還元性向 30%以上



配当(円)	40*	70*	90*	100	100	100	120	120	140
自己株取得(億円)	—	—	50	100	100	—	100	100	
DOE(%)	2.0	3.4	3.7	3.7	3.6	3.4	3.5	3.1	
総還元性向(%)	35	22	32	39	77	34	30	40	

*株式併合後の株式数を基に修正

7) キャッシュ・フロー計算書の予想

(単位：億円)

摘 要	22年度決算	23年度予想	増減
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	1,012	1,530	518
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 1,063	△ 1,380	△ 317
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	△ 51	150	201
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	25	△ 230	△ 255
IV. その他	77	0	△ 77
現預金等増減	51	△ 80	△ 131

3. 補助資料

- 1) 製品価格の状況
- 2) 売上収益の増減概要
- 3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳（四半期別）
- 4) セグメント情報
- 5) データハイライト

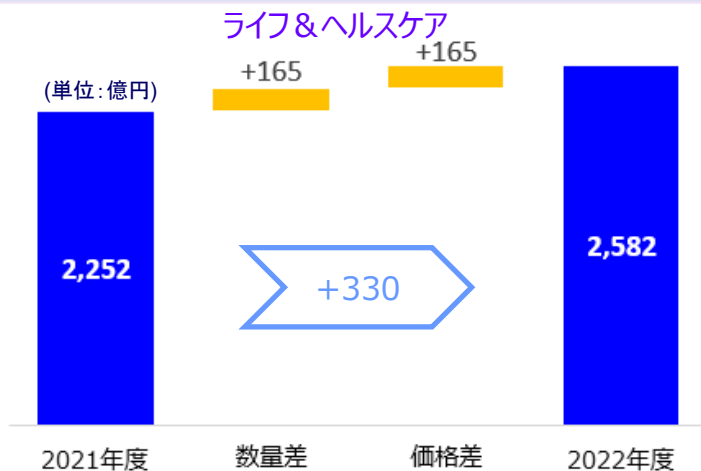
1) 製品価格の状況

(PE国内、PP国内、PH国内、BPA国内：国内価格改定幅)

年		2020年			2021年				2022年				2023年
月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
国産標準 力価価格	(円/KL)	24,900	30,200	31,300	38,800	47,700	53,500	60,700	64,600	86,100	81,400	72,500	66,500
PE国内	(円/KG)	△30円 程度	→	→	+20円 程度	→	+10円 程度	+30円 程度	+30円 程度	+15円 程度	△10円 程度	△15円 程度	△10円 程度
PP国内	(円/KG)	△30円 程度	→	→	+20円 程度	→	+10円 程度	+30円 程度	+30円 程度	+15円 程度	△10円 程度	△15円 程度	△10円 程度
PH国内 (7オミイ価格)	(円/KG)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
BZ (*ACP)	(\$/T)	\$360	\$440	\$490	\$720	\$930	\$1,030	\$970	\$1,030	\$1,230	\$1,120	\$880	\$930
BPA国内	(円/KG)	△15円 (6月~)	→	→	→	+60円 (4月~)	+35円 (9月~)	→	+20円 (3月~)	+32円(4月~) +38円(6月~)	→	△14円 (12月~)	△17円 (3月~)
BZ/BPA市況をベースに都度交渉													
BPA 中国市況	(\$/T)	\$1,210	\$1,290	\$1,990	\$2,630	\$3,230	\$3,320	\$2,480	\$2,340	\$2,060	\$1,580	\$1,450	\$1,300
PTA 中国市況	(\$/T)	\$420	\$440	\$450	\$600	\$660	\$710	\$700	\$830	\$950	\$840	\$760	\$780
PX (*ACP)	(\$/T)	\$500	\$550	\$560	\$770	\$860	\$920	\$890	\$1,090	\$1,260	\$1,090	\$980	\$1,030
TDI 中国市況	(\$/T)	\$1,330	\$1,580	\$2,330	\$2,150	\$2,040	\$1,900	\$2,200	\$2,610	\$2,770	\$2,320	\$2,410	\$2,430

* ACP アジア圏契約価格

2-1) 売上収益の増減概要

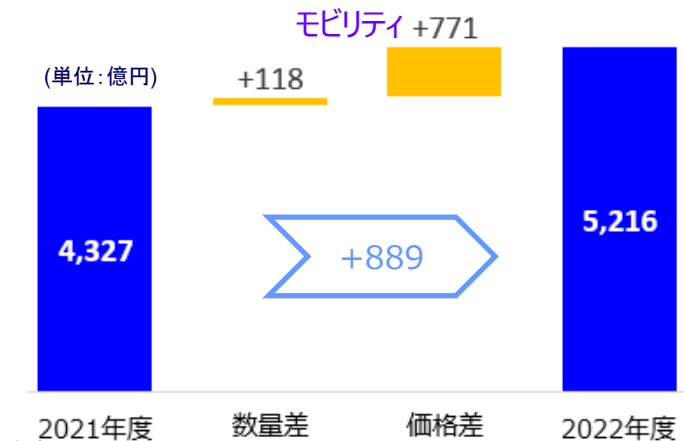


◆数量差 +165億円

・ビジョンケア材料、農薬は販売堅調。

◆価格差 +165億円

・原料価格上昇による価格改定、為替差。



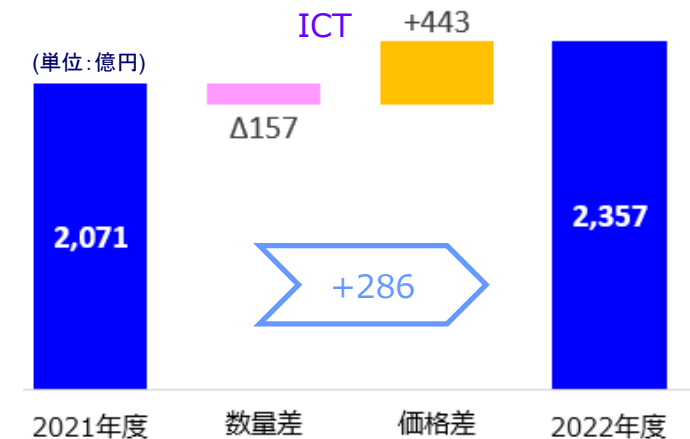
◆数量差 +118億円

・自動車用途回復、太陽電池封止材は販売堅調。

◆価格差 +771億円

・原料価格上昇による価格改定、為替差等。

2-2) 売上収益の増減概要

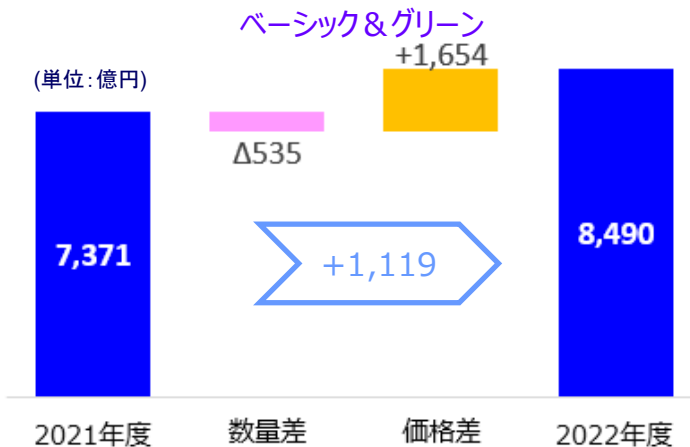


◆数量差 △157億円

・半導体関連の販売は減少。

◆価格差 +443億円

・原料価格上昇による価格改定、為替差。



◆数量差 △535億円

・ポリオレフィン及びフェノール類の販売は減少。

◆価格差 +1,654億円

・原料価格上昇による価格改定。

3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳 (四半期別)

(単位：億円)



セグメント	売上収益							
	21年度				22年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	523	505	561	663	587	634	647	714
モビリティソリューション	1,009	985	1,120	1,213	1,206	1,348	1,354	1,308
ICTソリューション	506	511	536	518	592	590	614	561
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	1,633	1,712	1,971	2,055	2,343	2,140	2,122	1,885
その他の	35	16	28	27	33	38	41	38
合計	3,706	3,729	4,216	4,476	4,761	4,750	4,778	4,506

(単位：億円)

セグメント	コア営業利益							
	21年度				22年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	64	53	66	66	62	76	78	76
モビリティソリューション	96	67	77	92	95	139	155	104
ICTソリューション	92	75	85	50	92	58	80	8
ベーシック&グリーン・マテリアルズ	270	226	179	103	208	65	25	△ 120
その他の	△ 3	3	△ 7	△ 36	△ 11	△ 8	△ 11	△ 32
合計	519	424	400	275	446	330	327	36

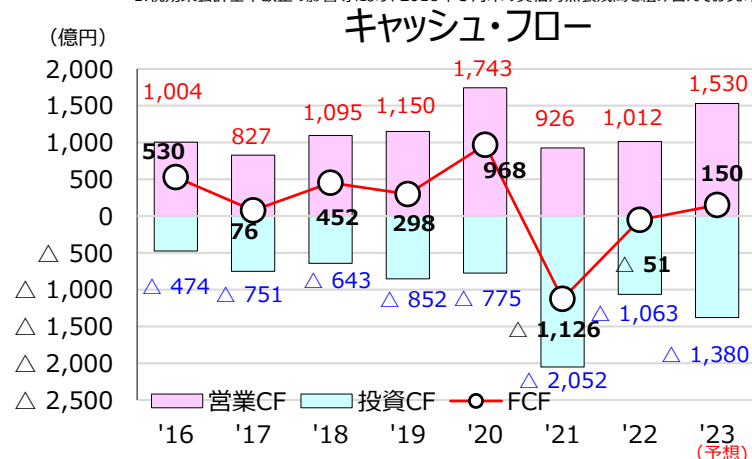
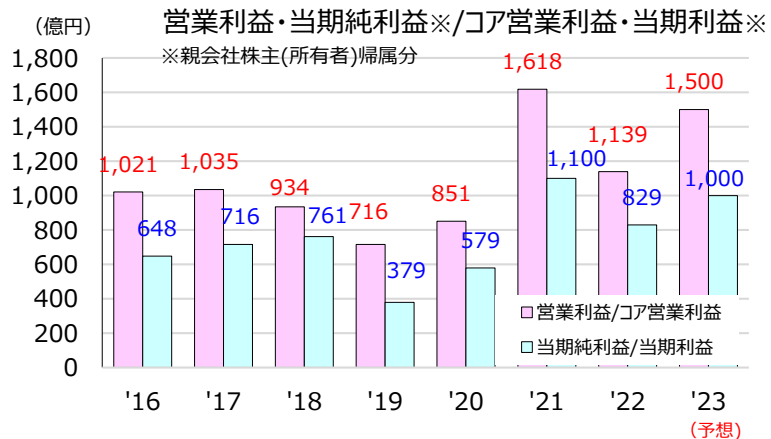
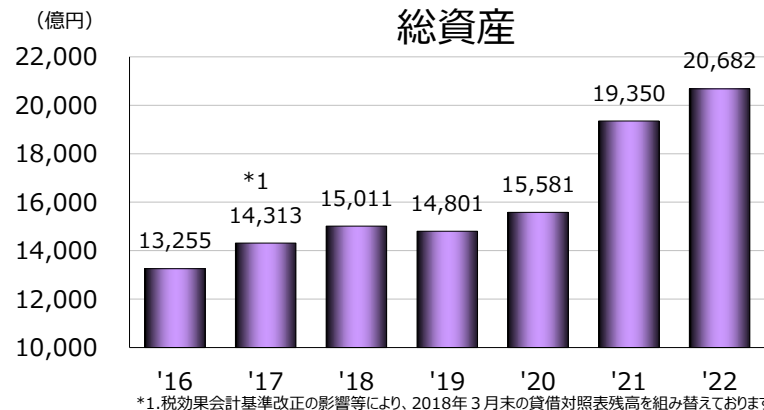
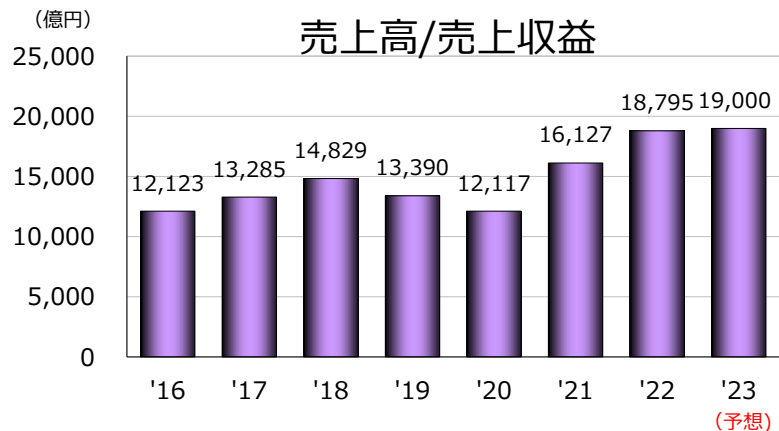
*21年度コア営業利益のセグメント組替につきましては22年5月13日の公表時からセグメントの修正を行っております。

4) セグメント情報

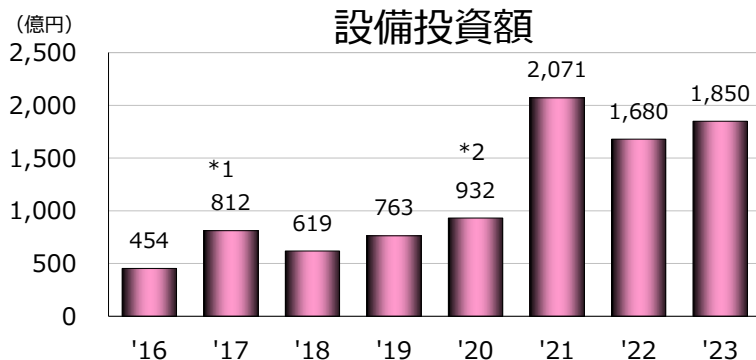
セグメント	事業分野	主な製品等
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	ビジョンケア、パーソナルケア、不織布、オーラルケア、農薬、医療事業推進室	プラスチックメガネレンズ材料 (MR™、Do Green™)、 医療材料 (タウリン)、 不織布 (シンテックス®、エアリア®、テクノロート®)、 オーラルケア材料 (充填材料、接着材料、デジタル機器)、 農薬 (ジノテフラン、テネベナール®)
モビリティソリューション	エラストマー重合、複合材料、ソリューション事業、モビリティソリューション事業推進室	タフマー®、三井EPT™、ルーカント®、 PPコンパウンド、機能性コンパウンド (アドマー®、ミラストマー®、アーレン®)  
ICTソリューション	半導体・光学、コーティング機能材、機能性フィルム・シート、ICT材料事業推進室	三井ペリクル™ (ArF、KrF、EUV)、アベル®、TPX®、半導体用ガス 高機能食品包装材料 (シーラント、接着剤、コート剤、環境対応包材)、 産業用フィルム (イクロステープ™、SP-PET™)、包装用フィルム (T.U.X®)
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	フェノール、PTA・PET、インダストリアルケミカルズ、サステナブル・フィードストックズ、ポリオレフィン、ライセンス、ポリウレタン材料 グリーンケミカル事業	フェノール、ビスフェノールA、アセトン、PTA、PET、 EO、ハイドロキノン、アンモニア、排ガス低減剤 (アドブルー®*)、 ポリオレフィン、TDI、MDI *アドブルーはドイツ自動車工業会の登録商標です。

5-1) データハイライト

注) ~19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



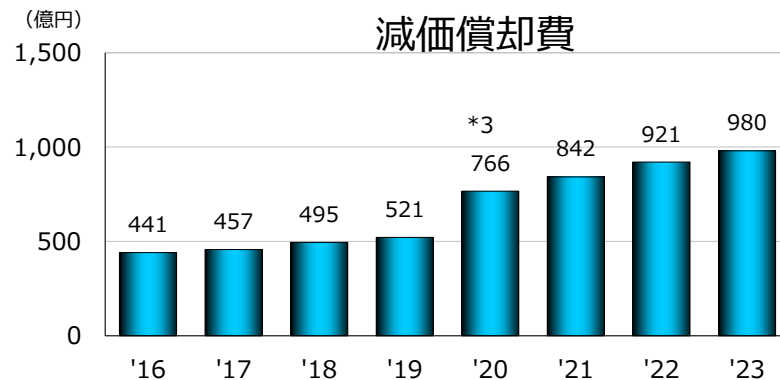
注) ~19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



*1. アーク社株式取得影響(239億円)を含む

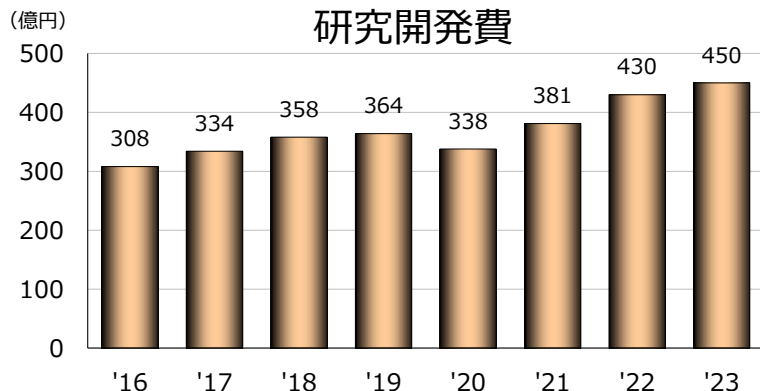
(予想)

*2. IFRS適用に伴う、定期修繕に係る費用等の取り扱い変更影響(設備投資額増加)を含む

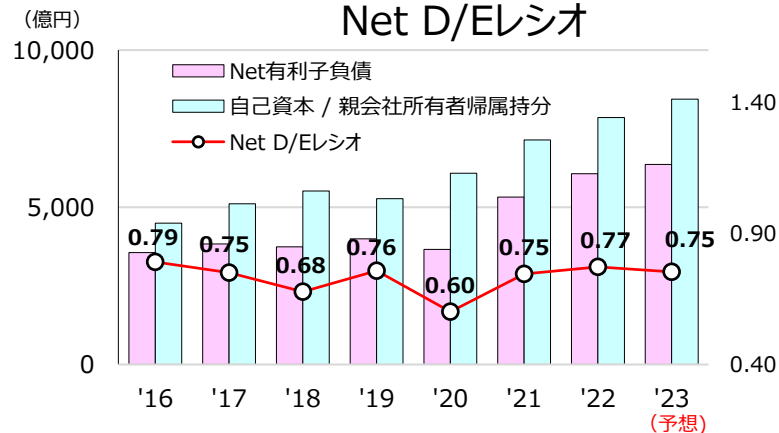


*3. IFRS適用に伴う、定期修繕に係る費用等の取り扱い変更影響(減価償却費増加)を含む

(予想)



(予想)

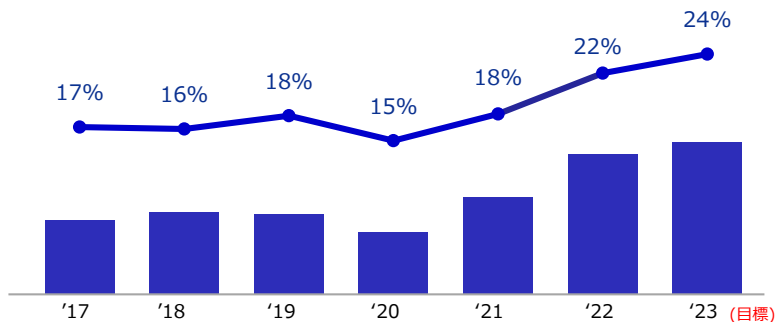


(予想)

Blue Value®製品売上収益

環境貢献価値 Blue Value®

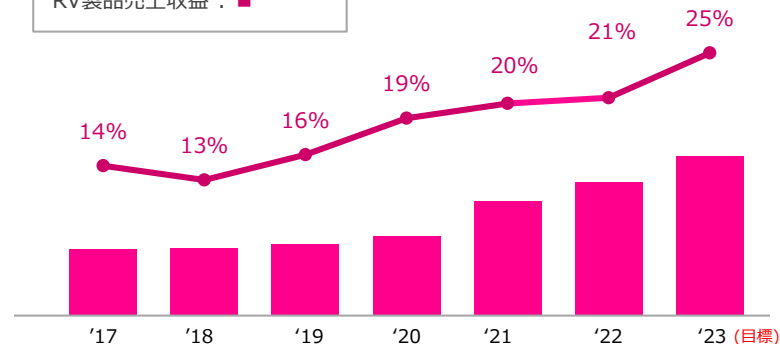
BV製品売上収益比率 : %
BV製品売上収益 : ■



Rose Value®製品売上収益

QOL向上価値 Rose Value®

RV製品売上収益比率 : %
RV製品売上収益 : ■



Blue Value®

事業ポートフォリオ別売上収益構成 (2022年度)

Rose Value®

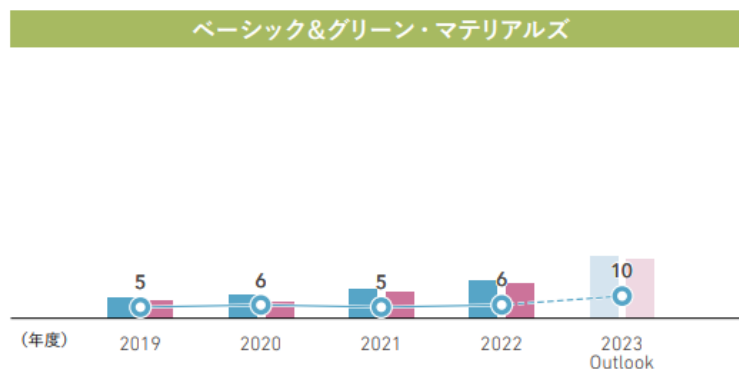
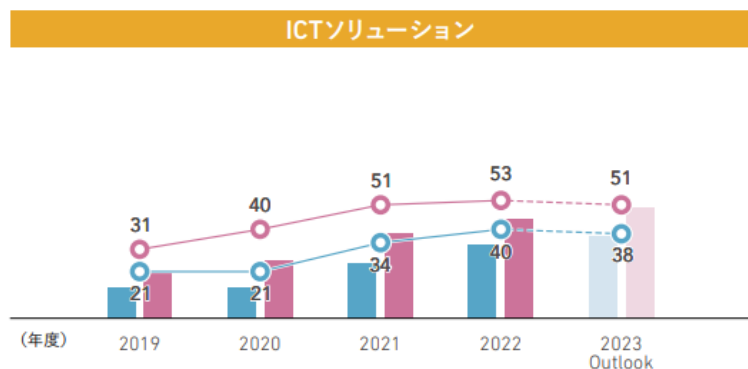
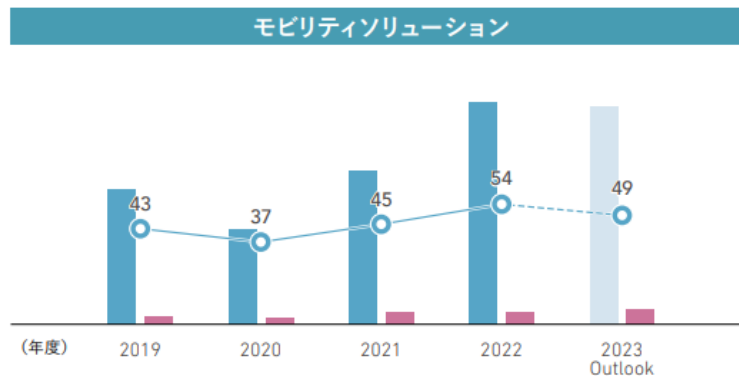
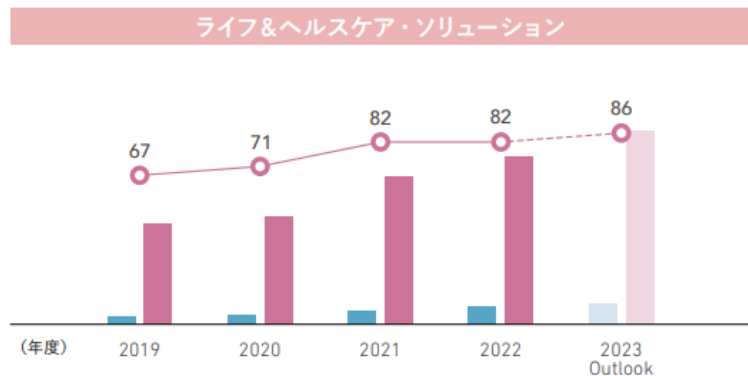


- ライフ&ヘルスケア・ソリューション
- モビリティソリューション
- ICTソリューション
- ベーシック&グリーン・マテリアルズ



各セグメントにおけるBlue Value[®]・製Rose Value[®]製品の売上収益および売上収益比率の推移

■ Blue Value[®]製品売上収益
 ○ Blue Value[®]製品売上収益比率(%)
 ■ Rose Value[®]製品売上収益
 ○ Rose Value[®]製品売上収益比率(%)



未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

Challenge Diversity One Team